

特集 ひと☆人

自らの地域は自らが守る

吉岡町消防団 第4分団

佐^さ復^{また} 加^か奈^な さん



インタビューの宮内正晴議員と

令和6年11月16日に渋川広域消防本部で、佐復さんへの一日消防長の委嘱式がありました。その後、佐復さんは一日消防長としてジョイホンパーク吉岡で、秋の火災予防の呼びかけと啓発物の配布を行いました。



— 今回のような経緯で一日消防長になられたのですか。

佐復さん 防災に興味を持ち、救急救命を学んだことから、お世話になっている地域に恩返しをしたいという思いで、消防団に入団しました。今回一日消防長を務めた経緯は、何事にも挑戦したい、誰かのためになることをやりたいと思ったためです。

— 女性消防団員として、どのようなお仕事をされていますか。

佐復さん 月2回の地域の火災予防の巡回、道祖神祭りの延焼防止・見守り、消防団員基礎教育の受講、水利査察、機関員教養の受講、実践型火災対応訓練、高齢者・障害者の援護システムづくりである「よしおか支え愛マップづくり」などの防災活動を行っています。

— 消防団員になって、良かったと思うことや大変だと思ったことはありますか。

佐復さん 良かったことは、地域との関わりがで

き、普通に生活していたら出会えなかった人々と会話したり、さまざまな消防活動に参加できたことです。また、初参加の消防学校での基礎教育訓練で、消防団の歴史や意義、災害時の活動について、団員としての心得を学ぶことができました。水利査察でホースを運んだり、防火水槽のふたの開閉をする力仕事は、男性にはかなわないと思うところもありますが、積極的に参加していきたいと思います。

— 町議会や町政に望むことはありますか。

佐復さん 消防団員が活躍・増えるよう周知、設備などの改善を要望します。

— 町民の皆さまへ一言お願いします。

佐復さん 現在、吉岡町に女性団員は3人います。それぞれ仕事・家事・子育てをしながら活動に参加しています。18歳以上で吉岡町に居住・勤務している人なら入団可能です。群馬県では女性団員は増加傾向にありますが、消防団員全体としては減少傾向になっております。地域社会のために「自らの地域は自らが守る」という消防活動を私たちと一緒にしませんか。



一日消防長としての啓発活動中

皆さんに聴きました 自助・共助・公助の連携を

議会広報常任委員が、町の課題について、関係する住民の皆さんにインタビューして、意見や思いを聴きます。今回は11月16日にジョイホンパーク吉岡で行われた秋の火災予防の呼びかけと、17日に行われた吉岡町総合防災訓練に参加・見学していた人に、火災予防や災害対策、そして共助について聴きました。

私たちが聴きました



いろいろな関係者が集まって防災訓練を行うことは、連携を図るため良いことです。

まだ、吉岡町は防災システムが弱いと思いますので、近隣の自治体と防災協定を結ぶなりして防災システムを強化してください。

女性団員が増えてうれしい。大規模店舗で災害に遭った場合の予防策に力を入れてほしいです。

消防署・消防団は、昼夜問わず活動することがあります。防災・防火意識、助け合いの心を常に持ち、安心安全な町づくりに協力をお願いします。

家で防災の備えがない。子どもたちをどのように守るか不安。避難グッズの見直しをしたいです。



災害が少ない群馬ですが、ひとごとではなく避難グッズを備えてほしいです。避難場所の確認を行ってほしいです。



防災のことは夫に任せているので、自分でも見直したいです。家はオール電化なので安心ですが、災害時に対応できるようにしたいです。起震車で震度7を経験しましたが、何をしていたのか分かりませんでした。

近年、全国各地で甚大な災害がニュースになり、備えの必要性を感じますが、時間の経過とともに危機意識は薄れてしまいます。災害時などの対応に「自助」・「共助」、公的機関による「公助」を知っている人が多いと思いますが、その連携が不可欠です。

住宅火災の原因は「電気器具」・「たばこ」・「ストーブ」・「コンロ」が主なもので、「放火」もその1つに入ります。ご自身や大切な人の命を守るため、防火・防災意識を持続しましょう。

総合防災訓練は災害時に役立つので、もっと住民に周知したほうがよいと思います。

防災グッズに何をそろえていいのかわかりません。子どものグッズをあまり見かけないので不安です。